



問1.【受診勧奨】受診勧奨が適当と思われる症状には○、セルフメディケーションが可能なら×を記入して下さい。

(1) 受診を勧めるべき生命に関わる緊急性の高い重大な症状ではないか？

① ずっと鼻が詰まっていたのだが、数時間前から発熱、増悪する頭痛、項部硬直※が現れている。

※：仰向けの状態で頭を動かすとき、左右には動くのに前屈させようとすると背中まで持ち上がってしまう。

② 鼻炎（又は副鼻腔炎）症状に続いて、数日前から徐々に頭痛が悪化し、息みによって強まる。

③ 副鼻腔炎のためか、眼窩の痛み、眼球の突出、眼の動きの制限、発熱等がみられる。

(2) その他、受診を勧めるべき症状ではないか？

① 鼻の中の掃除をして傷ついたのか、鼻孔の開口部のすぐ内側（鼻前庭^{びぜんてい}）に炎症が起き、化膿してしまったらしいのだが、鼻全体が腫れてきた。触れても痛い。

② 鼻から黄色や緑色の鼻汁が出ることがある。鼻の周囲の痛み、圧痛、鼻づまり、鼻の閉塞、嗅覚の低下、口臭、たんを伴うせき（特に夜間）がみられる。

問2.【セルフメディケーションでも対応できる鼻炎等】空欄に当てはまる適語を下欄から選んで下さい。

(1)「アレルギー性鼻炎」、「急性鼻炎」、「副鼻腔炎」による、くしゃみ、鼻水（水性・透明の）、鼻づまり等の症状に対する効能・効果をもつ医薬品には、（ ① ）、（ ② ）がある。

(2)「アレルギー性鼻炎」の効能・効果をもつ漢方薬に、（ ③ ）、（ ④ ）がある。

(3)「蓄膿症（副鼻腔炎）」のうち、激しい症状や合併症（疼痛、圧痛、腫れ、眼の異常、発熱、悪寒）が無い場合、一般用漢方製剤の（ ⑤ ）、防風通聖散^{ぼうふうつうしょうさん}、（ ⑥ ）、辛夷清肺湯^{しんいせいはいとう}等、半夏白朮天麻湯^{はんげびやくじゅつてんまとう}で対応することは可能である。

A. かぜ薬	B. 鼻炎用内服薬	C. 鼻炎用点鼻薬	D. 小青竜湯 ^{しょうせいりゅうとう}	E. 葛根湯加川芎辛夷 ^{かつこんとうかせんきゅうしんい}
F. 麻黄附子細辛湯 ^{まおうぶしさいしんとう}	G. 荊芥連翹湯 ^{けいがいれんぎょうとう}	H. 麻黄湯 ^{まおうとう}		

問3.【一般用医薬品の使い分け】

(1) 次の（ ）に当てはまる成分を下欄から選んで下さい。

・（ ① ）及び（ ② ）は第一世代の抗ヒスタミン成分に分類される。アレルギー性鼻炎に対する有効率はいずれも70%を超える。しかし鼻づまりには効果は弱いので、鼻づまりに対処するためにアドレナリン作動成分を配合した処方が多い。副作用として眠気、口渇、全身倦怠感が高頻度にみられる。

①は②と比較して持続時間が長いので、用法は1日2回。鎮静作用、抗コリン作用等は弱いという。

②の用法は基本的に1日3回だが、速放性と徐放性の製剤を混合したり、2層化したりすることで1日2回とした製品もある。主作用を担っているd体のみを抽出して半量配合することで、副作用を減弱させられる。

・第二世代の抗ヒスタミン成分は抗アレルギー作用も有し、一般に眠気等の副作用は少ない。とは言うものの、乗物又は機械類の運転操作が禁止されていないのは、（ ③ ）（ ④ ）である。血中の濃度が高まるのに時間のかかる成分もあるなか、（ ⑤ ）（ ⑥ ）は、クロルフェニラミンよりも早いうえ、用法は1日1回就寝前である。アレルギー性鼻炎に対する有効率は、第一世代と比較すると低いので、その人にとって効く成分を探すことが優先事項である。花粉症には、飛散開始時期から早めにのみ始めるとよい。

A. クロルフェニラミンマレイン酸塩	B. メキタジン	C. クレマスチンフマル酸塩
D. アゼラスチン塩酸塩	E. ペミロラストカリウム	F. エピナスチン塩酸塩
G. セチリジン塩酸塩	H. フェキソフェナジン塩酸塩	I. ロラタジン
J. エバスタチン		

(2) 下表は「アレルギー性鼻炎」又は「蓄膿症」の効能・効果を持つ、承認基準に基づく漢方製剤の例を適応体力ごとにまとめたものです。①～⑤の処方を下欄から選んで下さい。(処方の意図を考慮して選薬しましょう)

体力充実	比較的体力がある	体力中等度	やや虚弱	体力虚弱
← (①)、 <small>しんいせいはいとう</small> 辛夷清肺湯 →				
← <small>ぼうふうつうしょうさん</small> 防風通聖散 →	← (②) →		(③) →	
		← (④) →		← (⑤) →
A. <small>はんげやくじゅつてん まとう</small> 半夏白朮天麻湯	B. <small>かつこんとうかせんきゅうしん い</small> 葛根湯加川芎辛夷	C. <small>けいがいれんぎょうとう</small> 荊芥連翹湯	D. <small>まおうぶしさいしんとう</small> 麻黄附子細辛湯	E. <small>しょうせいりゅうとう</small> 小青竜湯

問4.【患者情報確認・生活スタイル】鼻炎用薬の添付文書に照らして、最も適当な語句を選んで下さい。

- ・承認基準に基づく鼻炎用点鼻薬には、(①)を配合することになっており、交感神経興奮作用がある。
- ・承認基準に基づく鼻炎用内服薬には、(②)を配合することになっており、眠気等の副作用を理由に「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」、服用前の相談事項に、抗コリン作用による副作用を理由に「排尿困難のある人」「緑内障の診断を受けた人」が記載されている。
- ・承認基準に基づく鼻炎用内服薬のうち(③)を配合している製剤には、「してはいけないこと」の「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」の理由に「目のかすみ、異常なまぶしさ等の症状があらわれることがある」、また、服用前の相談事項「次の診断を受けた人」に「心臓病」の注意が加えられている。
- ・(④)、(⑤)、(⑥)、トリプロリジン塩酸塩又はプソイドエフェドリン塩酸塩(硫酸塩)を配合している承認基準に基づく鼻炎用内服薬には、「授乳中の人」は、相談するよう記載がある(ただし、「してはいけないこと」に記載することもできる)。
- ・(⑦)を配合している鼻炎用内服薬には、「血栓のある人(脳血栓、心筋梗塞、血栓静脈炎等)及び血栓症を起こすおそれのある人」は、服用前に相談するよう記載がある。
- ・(⑧)製剤は「腎臓病」の診断を受けた人は使用できず、服用中はテオフィリン製剤を使用してはならない(本剤の作用を強めるおそれ)。「肝臓病」又は「てんかん」の診断を受けた人、「けいれん発作を起こしたことがある人」に対しては相談を促している。
- ・(⑨)製剤は、服用中は制酸剤を使用してはならない。
- ・(⑩)は気管支ぜんそく、アトピー性皮膚炎、肝障害の診断を受けた人に対しては相談を促しているが、腎臓病の人、てんかんの人への注意はない。
- ・(⑪)を配合している鼻炎用内服薬には、「前立腺肥大による排尿困難のある人」、「高血圧症、心臓病、甲状腺機能障害、糖尿病の診断を受けた人」は服用しないよう、また、「かぜ薬、鎮咳去痰薬、鼻炎用内服薬等により、不眠、めまい、脱力感、震え、動悸を起こしたことがある人」、「モノアミン酸化酵素(MAO)阻害薬で治療を受けている人」※、「腎臓病の診断を受けた人」は相談するよう記載が加えられる。

※：オキシメタゾリン塩酸塩配合の鼻炎用点鼻薬では「してはいけないこと」に注意の記載がある。

- | | | | |
|------------------------------|---------------|---------------------------|-----------------|
| A. 抗コリン成分 | B. アドレナリン作動成分 | C. 抗ヒスタミン成分 | D. メチルエフェドリン塩酸塩 |
| E. カフェイン類(カフェインとして100mg/回以上) | F. トラネキサム酸 | G. フェキソフェナジン塩酸塩 | |
| H. プソイドエフェドリン塩酸塩(硫酸塩) | I. セチリジン塩酸塩 | J. グリチルリチン酸として1日最大量40mg以上 | |
| K. ロラタジン | L. エバスタチン | M. メキタジン | N. ペポタスチンベシル酸塩 |

問5.【アドバイス】次の文章が正しいものには○を、誤っているものには×を、解答欄に記入して下さい。

- ① 鼻炎用内服薬の使用上の注意に、「高熱のある人」は相談するよう書いてあるのは、解熱成分が配合されていないからで、その場合にはかぜ薬をお使い下さいという意味です。
- ② 12時頃と18時頃の時間帯、特に晴れた風の強い日は、花粉の飛散量が多いので外出は避けましょう。
- ③ 6才の小児の鼻閉にも、使用量を減らせば、大人用の点鼻薬を使ってもよい。
- ④ 承認基準に基づく鼻炎用点鼻薬の1日の使用回数は6回を限度、適用間隔は3時間以上に設定されている。
- ⑤ プソイドエフェドリン塩酸塩配合鼻炎薬を2ヶ月分まとめて買おうとするお客様に購入理由を確認したが、説明が不自然なので、1包装単位だけ販売し、薬務主管課に販売状況とお客様に関する情報を提供した。



問1.【受診勧奨】受診勧奨が適当なら○、セルフメディケーションが可能なら×を記入して下さい。

(1) 受診を勧めるべき生命に関わる緊急性の高い重大な症状ではないか？

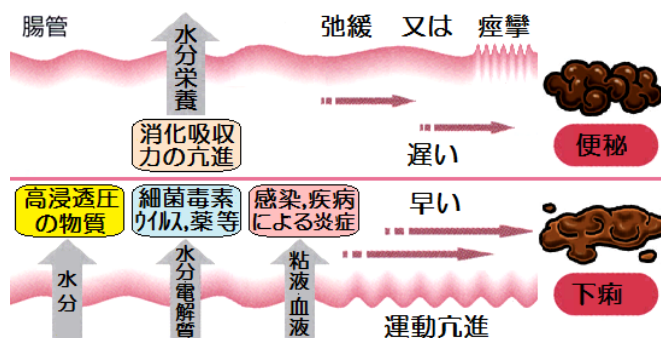
- ①短時間に鋭い痛みが起こっては和らぐが、痛みは次第に強まっている。お腹が張るが便もガスも出ない。
- ②腹痛とともに便秘と下痢を頻繁に繰り返す。
- ③突然の激しい下腹痛を伴って下痢。一度おさまったが、しばらく経つとまた腹痛が起こり、今度は血便が。
- ④水様便が続く、たちまち体重が1割近く減って、どうも体が変わる。

(2) その他、受診を勧めるべき症状ではないか？

- ①最近、下腹部痛を伴って便意が切迫するようになり、たびたび下痢をする。便に血と粘液が混じるようだ。肉体的、精神的ストレスが強まった時に増悪する。
- ②腹痛もなく突然に下痢のような（塊のない）赤黒い血が出た。
- ③お腹が痛み（主に右側）、下痢ときに悪心・嘔吐が繰り返しあらわれる。山梔子の入った漢方薬を長期服用中。
- ④色の薄い軟らかい便が大量に出て、臭いもひどい。浮いて便器壁に付着し、流そうとしても流れにくい。
- ⑤便秘するようになった。倦怠感が強く、いつも眠い。寒さに弱くなった。顔は浮腫みっぽく体重が増えた。

問2.【セルフメディケーションでも対応できる便通異常】空欄に当てはまる適語を下欄から選んで下さい。

- ・精神的ストレス等で大腸の運動が亢進し、腹痛を伴って軟便・泥状便になる「(①)」の症状には、腸管運動を抑制する成分が選択肢となる。一方、同じストレスが原因で大腸が痙攣し、便の通過が妨げられてコロコロ便の便秘になる「(②)」に対しては、腸を刺激する「(③)」は避けるべきである。これらを繰り返すような過敏性腸症候群なら「(④)」が選択肢になる。
- ・運動不足や極端なダイエットなどにより、腸管の蠕動運動が低下して便の滞留時間が延びるなどして硬くなった「(⑤)」には、便に水分を与え、排泄を促す塩類下剤や「(⑥)」を優先する。
- ・下痢の中でも、細菌毒素、腸管病原性ウイルス、非吸収性の食事、脂肪、薬物等により電解質と水分の分泌が吸収を上回る「(⑦)」では安易に止めず、殺菌成分、吸着成分を優先する。



- A. 便秘型過敏性腸症候群 B. 機能性便秘排出障害 C. 大腸通過遅延型便秘 D. 大腸通過正常型便秘
E. 運動亢進性下痢 F. 浸透圧性下痢 G. 分泌性下痢 H. 刺激性下剤 I. 膨張性下剤 J. 消化管運動調律剤

問3.【一般用医薬品の使い分け】

(1) 次の説明に該当する便通異常に用いる成分を下欄から選んで下さい。

- ①蠕動抑制作用には、腸壁内コリン作動性ニューロンの機能の抑制及びアセチルコリンとプロスタグランジンの放出の抑制が関与していると考えられている。また、水、Na 及び Cl の腸管腔内への分泌を抑制する。
- ②腸で胆汁により徐々に分解、遊離したタンニン酸の緩和な収れん作用により止瀉作用を示す。
- ③胃及び腸管内における異常有害物質、過剰の水分又は粘液などを吸着し、収斂・止瀉作用をあらわす。
- ④腸管の蠕動運動を抑制するとともに、胆汁分泌作用によって下痢を起こす病原性細菌の増殖を阻止する。
- ⑤感染性の下痢に有効。さらに、腸管内での水分分泌調節と、大腸の運動亢進の正常化作用をもつ。
- ⑥腸内容物の浸透圧を高めて水分量を増す塩類下剤成分。
- ⑦腸管内で水分を吸収して糞便の容積を増やすとともに糞便を柔らかくする膨張性瀉下成分。
- ⑧糞便中に水分が浸透しやすくする界面活性成分。

- A. ジオクチルソジウムスルホサクシネート B. 木クレオソート C. ロートエキス D. 乳酸菌 E. トリメブチンマレイン酸塩
F. ペルペリン塩化物水和物 G. ロペラミド塩酸塩 H. プランタゴオバタ種皮(子) J. 酸化マグネシウム
K. 天然ケイ酸アルミニウム L. タンニン酸アルブミン M. ピコスルファートナトリウム N. 次硝酸ビスマス

(2) 承認基準に基づく漢方製剤の例を適応体力ごとにまとめました。() の処方を下欄から選んで下さい。

「胃腸炎」又は「下痢」の効能・効果を持つ処方					
体力充実・比較的体力がある	体力中等度	やや虚弱	体力虚弱		
なし(現在の基準では、「体力中等度以上」に九味檳榔湯、平胃散の2処方があるのみ)	(①)、葛根黄連黄芩湯、半夏瀉心湯		人參湯(理中丸)、小建中湯、桂枝人參湯、(③)		
	←(②)→				
	←藿香正気散、(④)、当帰四逆加呉茱萸生姜湯、胃風湯→				
← (⑤) (体力に関わらず使用できる) →					
A. 真武湯	B. 桂枝加芍薬湯	C. 五苓散	D. 胃苓湯	E. 柴胡桂枝湯	F. 葛根湯

「便秘」の効能・効果を持つ処方				
体力充実	比較的体力がある	体力中等度	やや虚弱	体力虚弱
だいさい こうとう ←大柴胡湯、(①)→		けい し かしやくやくだいおうとう けい し かしやくやくとう 桂枝加芍薬大黃湯、桂枝加芍薬湯、(②) →		
おつじ とう さんおうしゃしんとう どうかくじょう き とう ←乙字湯、三黄瀉心湯、桃核承気湯、(③)→				
		(④)		→
		(⑤)		→
← (⑥) (体力に関わらず使用できる) →				
だいおうかんぞうとう A. 大黃甘草湯	ぼうふうつうしょうさん B. 防風通聖散	さいこ かりゅうこつぽ れ とう C. 柴胡加竜骨牡蛎湯	ちょういじょう き とう D. 調胃承気湯	まし にんがん E. 麻子仁丸
		じゅんちやうとう F. 潤腸湯		

問4. 【患者情報確認・生活スタイル】添付文書に照らして、最も適当な語句を選んで下さい。

- ・止瀉薬ではビスマス塩類、(①)、ロートエキス又はロペラミドを配合する製剤で、瀉下薬では生菌製剤とビタミンB₁主薬製剤以外で、「妊婦又は妊娠していると思われる人」は相談するよう記載されている。
- ・(②) は、禁止事項に「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」「授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」、相談事項に「排尿困難のある人」「緑内障若しくは心臓病の診断を受けた人」の記載がある。また、この成分によって便秘につながることもある。
- ・(③) は、禁止事項に「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」「服用前後は飲酒しないこと」、相談事項に「便秘を避けなければならない肛門疾患等のある人」「授乳中の人」の記載がある。
- ・(④) は、吸収量増加や蓄積を防ぐため、「服用前後は飲酒しないこと」、「1週間以上継続して服用しないこと」、「胃・十二指腸潰瘍の診断を受けた人は服用前に相談すること」が記載されている。
- ・(⑤) は、乳製カゼインに由来しているため、牛乳アレルギーのある人は使用してはならない。
- ・(⑥) 配合止瀉薬には、「甲状腺機能障害の診断を受けた人」は相談するよう記載されている。
- ・(⑦) 製剤には、禁止事項に「透析療法を受けている人」、相談事項に「腎臓病の診断を受けた人」の記載がある。
- ・便秘の副作用のある医薬品は多いので、服用薬を確認する。また、内服用痔疾薬、婦人薬、胃腸薬、漢方薬には(⑧)を配合していながら「便秘」の効能・効果が無い製品もあり、瀉下薬との併用に注意が要る。
- ・(⑨) の相談事項には、「高齢者」「心臓病の診断を受けた人」「痔出血の症状がある人」が記載されている。
- ・(⑩) の瀉下薬は、「高齢者」、「腎臓病の診断を受けた人」は、相談するよう記載がある。
- ・糖化菌の一つである(⑪)を含有する製剤は、「ワルファリン」を服用している人に要注意。

A. ビフィズス菌 B. 納豆菌 C. ロペラミド塩酸塩 D. ロートエキス E. ビスマス塩類 F. カルシウム塩
G. 天然ケイ酸アルミニウム H. 酸化マグネシウム I. ウルソデオキシコール酸 J. タンニン酸アルブミン
K. グリセリン浣腸 L. カンゾウ M. ダイオウ

問5. 【アドバイス】次の文章が正しいものには○を、誤っているものには×を、解答欄に記入して下さい。

- ①水瀉性下痢の時は、糖尿病で薬物治療をしている人は、低血糖を起こさないように注意する必要がある。
- ②浣腸薬の使用後、すぐに排便を試みると薬剤のみ排出されてしまうため、便意が強まるまで我慢して下さい。
- ③浣腸薬による排便直後は、安静にして下さい。
- ④ビサコジルの内服薬はよく効くので、腹痛をおこしやすいなら、半分に割ってのんでもかまいません。
- ⑤高タンパク質、高脂肪食は善玉菌を増やすので、高脂血症には注意しながらしっかり食べましょう。